



JAC北九だより NO.23

社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
 事務局: 北九州市門司区新原町12-27
 関口興洋方
 TEL・FAX 自宅 093-382-6436
 携帯 090-8919-6776
 発行人: 秦野一彦
 編集人: 関口興洋・伊藤久次郎



日本山岳会北九州支部

平成17年度 第6回通常総会報告

事務局 No.13643 関口興洋

眩しい陽射しが新緑に映える季節となりましたが、会員の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。

「JAC北九だより No.22」にてご案内しました通り、4月16日(土)八幡東区の大谷会館にて第6回通常総会が開催されましたので以下ご報告いたします。

- 会員の状況
本部会員83名、支部会員77名、合計160名
- 総会出席者
32名、委任状提出者52名、合計84名
- 支部長挨拶
- 議案の審議
議長に秦野支部長、副議長に大庭副支部長が選出され、議案書に従い審議が進められた。

第1号から第6号までの各議案が拍手で承認可決された。

第2号議案収支決算報告、第6号議案収支予算(案)に関連し、園川会員より、剰余金(積立金含め)がかなり発生しているの、遭難対策費を計上すべきではないかとの問題提起がなされた。本件は役員会の課題として検討することとした。

○ 懇親会

出席者30名。九重山、霧島山、阿蘇山、祖母山の4テーブルに別れ着席。吉村前支部長の乾杯の音頭で開宴。吉村前支部長他多数の方から飲み物の差し入れを頂き盛り上がる。

宇部市から若い新入会員2人(30代)の参加を得て華やいだ雰囲気となる。

以上

日本山岳会創立100周年記念事業「中央分水嶺踏査」

北九州支部担当エリア 全長221km!

分水嶺踏査 すべて達成!



22号でお知らせしましたように、各チームのトップを切ってBチーム(リーダー西村信子)がすでに分水嶺踏査を達成しましたが、続いてAチーム(リーダー原ひろみ)が3月27日に、Cチーム(リーダー楠田和彦)が4月14日に、そして最後にDチーム(リーダー大楠益弘)が5月8日に貫山から平尾台の吹上峠までを踏査し、遂に、九州5支部で最も長い、北九州支部担当エリア全長221kmの分水嶺踏査をすべて成し遂げました。

最後の達成の日、支部長、副支部長ほか、各チームのメンバーも参加して平尾台のキャンプ場でクロージングセレモニーをいたしました。中山福岡支部長もお祝いを持って駆けつけられました。ありがとうございました。



5月8日、最終地点の平尾台吹上峠に到着したDチーム分水嶺踏査隊とそのほかの皆さん

分水嶺特集

以下は、Aチーム、Cチーム、Dチームの最後の分水嶺踏査から、その体験記を特集した。

Aブロック 多くの人が一丸となって達成!

GPS、ヤブコギ、木登り等 今までになかった経験!

No. 11990 原 広 美

2004年4月11日、山口県と島根県の県境に位置する仏峠からAブロックがスタートしました

初日はA、B2チームに分かれAは仏

峠～三ツヶ峰、Bは野道山～野道峠を総勢17名の参加で歩きました。

2005年3月27日の最終回まで阿東町に通った回数は20回、交通手段はマイカー



Aチーム最後の分水嶺踏査 三ツヶ峰登山口

で往復4時間、又延べマイカー使用台数40台 人数は121名、にもなりました

一年前を振り返ると‘分水嶺を歩く’よく理解しないまま、GPSと地図、シルバーコンパス、鉋など持参して、とにかく現地に行って歩こう！ 手探りの状態で一部町村の境界杭をたよりに歩いてみました。

山口県の山は低山なのですが、その殆どがクマササやスズタケの藪山です。一番の難所は野道峠から栃山峠、下深山方面でした。藪ももちろん大変なのですが、エスケープルートがないことに行き詰まりましたが、皆さんと知恵を出し合いどうにか前に進むことができました。

さてこの1年間分水嶺を歩いて良かったことというと読図や地形の見方、それとチームワークです。

又GPSは今回初めて手にしましたが、うっそうとした樹林帯の中では作動が一時ストップしたり雪が降っているときなどは位置が狂ってしまったり‘困った’ということがありました。反面わかりにくい尾根を探するときなどは随分助けられました。

登山中は常に尾根を探しながら行くのですが、小さな見落とすような低い尾根このようなところは迷いやすく行ったり戻ったりの繰り返しでした。又反対にGPSと2、5万図の緯度、経度がぴったり合うと足取りも軽いものです。

倒木があれば鋸で切ったり、くぐったり、木の上に登って尾根を探し



3月27日 分水嶺終点の野道山で



3月21日 Aチームの下深山分水嶺踏査応援に駆けつけた京都支部会員5人と合同踏査実施

参加者(敬称略)

後列左から重宗、金光(京都支部)、中村、広中、石田(京都支部)、伊藤(同)。中列左、高島。前列左から原、篠田、林(京都支部)、中島(京都支部)

たり、全身でササコギをしたり今までになかった経験をたくさんしました。

このような状況を何度も繰り返しながら、3月27日 三ツヶ峰～野道山の未踏査部分を歩いてついに達成、事務局長差し入れの赤ワインで、カンパイ！分水嶺踏査終了しました

今年は特別積雪が多く又昨年秋には熊の出没など悪条件にも関わらず、会員や非会員又山口県在住の京都支部会員、たくさんの方々が丸一となって踏査できたことは大成功だったと思っています。

常に鉋や鎌を振ってトップに行った頼もしい男性の方、藪歩きをしたことがない女性の方、お疲れ様でした。

Cブロック 混成チームで総合力を発揮

最高齢者(藤田傳氏)78歳も5回参加!

No. 13994 楠田和彦



Cチーム最後の分水嶺 山中峠



見つけた三角点で

Cブロックは、昨年5月5日から踏査を開始し、完歩に至るまで他チームのリーダー、会員更には山友までの熱き心の助け手の協力をいただきました。

データのまとめをしてみますと、

- 山行延べ回数：20回
- 山行延び人員：92名
- 車両延べ台数：31台

という大掛かりな取り組みとなり、今春4月14日、達成することができました。

担当のエリアは、大ヶ峠 W.627 から壇の浦 W.678 までの間(地形図上約80km)でした。チーム編成では大世帯を擁する中、机上の計画では、簡単なもののようにでしたが、実行段階に入ると連絡を待ちに待っても一報も無いという実情であり、連係が機能せず、他チームへ心配かけたものでした。

昨年秋頃から事務局のてこ入れにより軌道に乗せることができ、山口県地元Aチームのメンバーには、ヤブコギや先頭歩きをしていただき助かりました。特に、原リーダ、中村さん、塩屋さんご足労おかけしました。

踏査エリアが北東位に進む頃、ベテランの篠田さん、内藤さん

に同行願ったことで豊浦、菊川、豊田、長門の地理が頭の中へ入り出し、車の運転にもゆとりができました。

困難をきわめた大笹山、草添分岐から大寧寺峠、更に三ツ頭分岐、江ノ峠は、境界線らしき杭打ちもなく地形図とコンパスの読み合いで三角点やピーク分水嶺の確認踏査でその達成感は深まり、4月に入ってから3、8、9日の連続山行では、地形図の周辺事前調査など、井上さん、高島さんの的確なアドバイスをいただき踏査完了の目処が立つことができました。

山容の深まりから、鹿の防御ネットには7体の白骨化頭部を確認しましたし、山頂での眺望や馬酔木の花にも出会いました。

チームの最高齢者藤田傳さん78歳にも5回参加していただき苦しいなか心とらぐユーモアある言動によって奮起でき満喫した山行でした。

チーム編成が広域にわたったこともあり、博多からの新幹線で駆けつけ協力いただいた橋本さん、室津さん(2回)、山田さん(5回)にはありがとうございました。

踏査完結の日は、A、Bチームリーダーの原さん、西村さんお二

人の参加をいただき、二班に分かれGPSをそれぞれに持っての山行でした。

何十年振りというか若き学生時代にしていた地形図に基盤模様の線引きをした登山の原点に立ち返る地図読みができました。眼力、視力が弱ってメガネを外したり、掛けたりで大変な苦勞を伴いましたが、今では安堵感でそれも吹き飛びました。

何とかリーダーの代役を務め、踏査完歩にこぎ着けることができ、皆様にご協力いただき、改めましてお礼申し上げます。

有り難うございました。



白骨化した鹿の頭部



**Dブロック 貫山と吹上峠で最後を飾る
複雑な街中の分水嶺に苦勞!**

No. 13471 板倉 健一 (中央分水嶺踏査委員長)



本年3月6日、関門トンネル人道口に集合し、Dブロックの分水嶺踏査登山は始まりました。自宅から分水嶺が見える絶好の条件です。A、B、Cブ

ロック担当の方々には、大変申し訳なく思っています。先ず、和布刈の水準点を確認しました。和布刈から戸の上山までは分水嶺は史跡めぐりでした。

5月5日 志井く貫山の分水嶺踏査。
参加者(敬称略) 後列左から宮城、関口、板倉、大楠、舛木、前列左から伊藤、高城、西村(信)

戸の上山から足立山までは企救自然歩道です。最も興味のあった区間は、足立山の麓の湯川から志井までの街中でした。紫川と竹馬川の両方の水系が複雑に入り組んで、分水嶺を探すのに苦勞しました。30年前までは丘陵地帯だったのが、今では高級住宅地です。最も大変だったのは、志井から貫山のヤブコギ区間でした。地図をしっかりと読み込んで、間違いなく貫山に着いた時は本当にホッとしました。

5月8日、最後は貫山から吹上峠のハイキングコースでした。Dブロックは7回の山行で完了しました。

ABCDの各チームが丸となって、山口・島根県境の仏峠から平尾台まで、北九州支部担当エリア、総延長221kmの中央分水嶺踏査を完成させた事をとても嬉しく思います。

皆さん、本当にありがとうございました。



分水嶺踏査最終日の5月8日(日) Dチームとその他のメンバーも踏査に参加。25名が貫山に登った。

**分水嶺踏査完了登山に参加して
支部長の山野草説明に感心!**

No. 13992 山田 武史

5月8日(日)、薄曇り乍ら雨無く、程良い天候のもと、秦野支部長以下総勢25名が北九州支部担当のコースの中で、最後に残った貫山～平尾台吹上峠間の分水嶺を踏査し、13時40分吹上峠に到着。これにて1年強にわたる北九州支部の分水嶺踏査も無事終了

したのでした。
私は、Cチームに属し、山口県的一位山を中心に3月～4月の間、延5日間参加し、ヤブこぎを始め、尾根を間違えての登り返し等道なき道を歩く、今までとは違った一種別の山登りを体験しました。三角点の石標を確認出来

たことの喜び、又ある筈の三角点石標を見つけられなかった時の無念さ。悲喜こもごもの中にも、昼食になるとリーダー役の楠田さんに、火付け役の藤田傳さんがいるから、ビールに始まり、焼酎、ウイスキー、ブランデーとなり一段と盛り上がる。Cチームは何と酒好きの人が集まった事か。それはそれで、又、楽しかった。

5月8日の最終章の貫山登山は、今までとは趣が異なった。山野草に目を注いでの山行となった。野草に



支部長も頑張る



キンラン(貫山ふもと)



踏査達成を祝ってシヤンパンを抜く

詳しい西村信子さん等の話を聴き、メモを取り乍らの登行の中で、自然に支部長と歩を共にする形となり、支部長からも次のような多くの野草を教えて頂くことが出来ました。大感謝です。

ムラサキセンブリ、オキナグサ、カノコソウ、シャジン、センボンヤリ、ヒメ

ハギ、キンラン、ホウチャクソウ、エイザンスミレ、オトギリソウ、アカネ、オドリコソウ、イヌノフグリ、ナルコユリ、アマドコロ、ウマノアシガタ、ホトトギス、トラノオ、ミツバアケビ・・・

下山後は、平尾台キャンプ場芝生での遅い昼食と踏査完了打ち上げ大宴会となりました。ビール、ワイン、

焼酎等の豊富な飲み物と西村さんが前日から準備した酒のつまみの数々、伊藤夫人が焼き直し温められた焼き鳥、原さんが下関から持参のカマボコ、チクワ等々を肴に、大いに飲み、語らい、楽しい一日でした。一緒に歩いて頂いた皆様、どうもありがとうございました。

参加者一同より このクロージングセレモニーのために、中山福岡支部長、秦野北九州支部長、日向会員、山下夫妻支部会員からワインや焼酎、ビールの差入れを頂きありがとうございました。一同厚く御礼申し上げます。

5月8日 最後の分水嶺踏査に参加した方々(25人)

秦野一彦(4325) 江頭精一(10448) 大庭常生(11395) 日向祥剛(11427) 原 広美(11990) 板倉健一(13471) 伊藤久次郎(13499) 西村信子(13520) 浦田和夫(13530) 馬場基介(13532) 磯野文雄(13533) 高島拓生(13541) 末吉史忠(13642) 関口興洋(13643) 片山俊昭(13738) 片山礼子(13739) 橋本健一郎(13743) 西村俊二(13810) 吉岡千津子(13812) 室津健次(13986) 山田武史(13992) 立野卯三男(北九348) 山下定治(北九372) 山下富美子(北九373) 伊藤トモヱ(ゲスト)

安蔵寺山 十種ヶ峰 山行記

入会初山行で 会のイメージが一新

北九 393 前 田 美 幸



島根県 安蔵寺山(4月23日)

もっと色々な山に登ってみたい・・・でも専門的な知識は全くないし周りも一人でなんて、と心配するし

・・・そんな中で思い立ったのが日本山岳会北九州支部への入会でした。インターネットで山のサイトを検索

していてホームページを知ったのですが山口支部はなく、北九州支部も連絡先が載っていなかった為、関西支部に連絡して連絡先を教えてくださいました。そして先日初めて支部の総会に出席し、和やかな雰囲気誘われるままに4月23日、24日と安蔵寺山、十種ヶ峰への山行に参加させて頂きました。行くまでは今までこのような会の山行に参加した経験もなく、また登山経験豊富な知人についていくばかりでペース配分も全くできない状態なので皆さんに迷惑をかけたらどうしようと不安で仕方ありませんでした。しかしながら実際登山を始めると今までとあまりに違ったかんで正直驚きました。お花が好きでのんびり写真を楽しむ人、景色を楽しみながら一步一步踏みしめるように行く人、植物などの知識豊富で色々親切に説明して下さる人、今まで山は、自分の体に負荷を

かけて頂上にたどり着いた時の気持ちよさを味わいたいが為に登ってきた私にはとても新鮮に映りました。

夜、十種での宿泊もとても楽しい時間を過ごさせて頂きました。パオの中でのすき焼きや色々な美味しいお酒、それに山の話話が満載で、新入りの私でも全く気後れせずに楽しく過ごさせて頂きました。

寝るときもパオの中に糞虫がごろごろといったかんじで最初は変な気分でしたが、初めての経験であった寝袋の心地よさを充分堪能することができました。前日から練習を繰り返したのにもかかわらず、30分かかってもたたむことができずついに袋に半分だけ入れた状態で持っていった寝袋も、会員の方にたたみ方を教えてもらい帰りにはきちんと袋に収めて持って帰ることができました。

翌日の十種ヶ峰はまた、高校の頃オリエンテーリングで登っており、車ですぐのイメージもあったので正直あまりたいしたところではないだろうと思っていたのですが予想を裏切り、登山道がないところを歩いていくという、今まで私が経験したことのない楽しいものでした。

最後に一夜の宿となったパオの掃除。こういうのが一番重要なことのひとつだと、私は思う。登山をすることと同じくらいに。

8時に神角に移動し、神角コースから十種ヶ峰を目指す。内藤さん、原さんは、全体を考えてゆっくりのペースで、休憩、ガイドなど気の配り方も相当なものである。また、地元などの努力のおかげで、登山道が整備され、こうして登山をすることができる。感謝しなければならない。

登山道は、九十九折れから、陽のあたるゆるい登り、階段の登り、そして山頂へ。山頂からは、日本海が遠望でき、芝の斜面でしばらく横になり、下りることに。下る速度は速く、やせ尾根からザレの下り、不本意にも3度も足をすくわれた。隠れた沢のヤマシャクの群落は、開花まであと少しだった、少し残念。本当は、ここで皆の歓声があつと上がるところだろう。メンバーの多くは、他の人にもあげる行動食を持ってきていて感心した。パーティ登山は苦楽を共有し、装備や、食料でも有利なことが多いが、独り歩きのメリットも再認識できた。これからは、パーティ登山に参加することが多くなる一方、単独行も相変わらず続けて行きたいと思う。最後に、会員各位のご親切に心より感謝致します。

(2005.4.26 自宅にて 和田)

安蔵寺山 十種ヶ峰 山行記

パーティ登山で、独り歩きのメリットを認識

北九 394 和田 秀 明



十種ヶ峰山頂 (360度の大パノラマ)

4月23日 晴れ

9時、夜勤の仕事が終わり、山行に急行した。前日からの風邪と、過労と、睡眠不足でかなり体調は悪い。12時15分、安蔵寺トンネル登山口到着。稜線まで10分と少しの登り、そこから少し下ったところで、大パーティの話し声があった。このパーティが、行程を変更した北九州支部のパーティだとわかった。簡単に挨拶をして、パーティに入れてもらい、13時15分、安蔵寺山山頂へ。広い範囲の地形図がないので、山座同定のしようがないが、西中国山地には、特徴的な山岳はなさそう。しかし、晴れた空に新緑の色が鮮やかで潤いを感じる。下りも、奥谷へ向

かう他のメンバーと別れて内藤さん達と安蔵寺トンネルへ下山。行程は距離にして半分以下である。

十種ヶ峰キャンプ場のパオでは、すき焼きをつくり、皆で囲んでいた。単独行であれば、小屋の夕食後、さっさと寝てしまうところだが、酒と歌の宴は夜遅くまで続き、翌日の登山に支障があるメンバーもいたくらいである。

4月24日 快晴

朝6時起床。昨日の宴会の片付けなどをして、ビールのアルミ缶を登山靴で、縦にカシン、カシンと踏み潰す。うまいくくと結構気持ちがいいものだ。朝食は、すき焼きのおじやと、しょうゆ味のうどん。

あぞうじ
安蔵寺山(1,269m)
 とくさがみね
十種ヶ峰(989.2m)
登山記録
 北九 14081 塩屋 薫

4月23日 安蔵寺山

行程 7:00 玉姫殿発、国道2号～9号、9:00 長門峡で全員合流。10:40 安蔵寺山登山口着。(杜の里よこみち) 標高750m

登山記録 天候晴れ 気温 12～17度 微風 10:52 発、中国自然歩道に行く、11:10 打原峠(山頂まで4.7km)、11:38 高鉢山分かれ(山頂まで3.8km)、11:55 七村峠分岐(山頂まで3.4km)、12:09 安蔵寺トンネルへの分岐、12:11 大ミズナラ巨木着。

標高1,095m、樹齢600年、樹高20m、幹回り4.4m、島根県で一番の大木。12:37 荒谷合流点(山頂まで1.6km)、13:10 安蔵寺中峰(山頂まで0.5km)、13:20 安蔵寺山着。一等三角点、西中国山地国立公園の丸太の看板有り。数下りに石仏有り。眺望は良く中国山地が見渡せた。昼食。集合写真を写し、14:00 下山開始。15:34 打原峠、16:08 登山口に無事下山。登り2:28、下り2:08(いずれも休憩含む)。

感想 山頂まで4.7k、アップダウンが数多く有る長い道のりであったが、良く踏まれており歩きやすかった。新緑も萌え気持ち良い、森林浴が出来た。途中内藤さん和田さんと合流。追記 ミズナラ巨木、第1ピーク北

峰1,257m、寺屋敷1,200m、17:54 十種ヶ峰パオ着。すき焼きで夕食、乾杯。お疲れ様でした。

4月24日 十種ヶ峰 天候晴れ 気温15度 微風 登り1:52

登山記録 8:20 パオ発、8:58 神角(こうづの)、標高410m着。神角集落の方が開いた、ふるさと林道をジグザグに登り10:50 山頂着。一等三角点、360度のパノラマが展開。パラグライダーの飛人2人が風待ちをしていた。11:20 山頂発、笹ヤブのやせ尾根を下り標高800mのガレ場で、山しゃくの大群落があり、何れも蕾で見頃は数日後か。昼食後、堰堤を越えて13:13 登山口に下山。下り1:23。参加者省略。

山行計画のご案内

6月の山行

焼岳～上高地～ウエストン祭参加

日程

6月3日(金)～5日(日)

行程

6/3 小倉～名古屋(新幹線)～松本～中の湯(泊)

6/4 中の湯～焼岳～上高地(泊)

6/5 ウエストン祭参加後、松本、名古屋經由帰倉

費用概算：65,000円

締め切り：5月末、時間的余裕がなく申し訳ありません。

申し込み先：事務局 関口宛 tel/fax: 093-382-6436

7月の山行

九州ブロック100周年記念 式典参加と韓国岳交流登山

日程：7月16日(土)～17日(日)

行程：7/16 記念式典(えびの高原ホテル、泊)

7/17 交流登山(韓国岳他)

参加費：15,000円(現地までの交通費は別途負担)

締め切り：6月15日

申し込み先：事務局 関口宛 tel/fax: 093-382-6436

8月の山行

剣岳(リーダー：山田 武史)

日程：7月31日(日)～8月2日(火)

行程：7/31 福岡空港～富山空港～富山駅～立山駅～美女平駅～室堂～雷鳥沢ヒュッテ(泊)

8/1 雷鳥沢ヒュッテ～別山乗越～前剣～剣岳～剣沢小屋(泊) 行程11時間

8/2 剣沢小屋～室堂～美女平～立山駅～富山駅～富山空港～福岡空港

概算費用：80,000円

締め切り：6月20日

申し込み先：事務局 関口宛 tel/fax: 093-382-6436

尚、参加者が確定した段階で、7月中に登山訓練を実施 以上

サロン



毎月第4水曜日

5月のサロンは、お休み

6月のサロンは、22日(水)

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コールド」

(魚町銀天街、酒房武蔵より

西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

○今回の編集は、大変バタバタいたしました。100周年記念、5周年記念、それに分水嶺踏査、おまけに展示会の準備やらで、福岡に行ったり東京に行ったり、又酒も飲まなけりゃならんし、さらに、なかなか原稿が来ないし、でやっと分水嶺の原稿が揃ったのが昨日(20日)、この数日は一日中パソコンの画面とにらめっこで、悪い目がさらに悪く、そして頭が痛くなり、悪い頭がさらに悪くなりました。

関口事務局長も過労気味で風邪までおひきになり、頑張っておられます。

とにかく英彦山の5周年記念式

典の前に発行しようとお互い頑張っていました。この最後の余白が埋まれば出来上がり！しかし、小倉まで印刷に持って行かなければなりません。そして、よってたかって封筒の宛名貼り、封筒詰め、投函が残っております。ハイ、終わりました。 伊藤Q

○山の原稿は

事務局(関口事務局長)又は〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎までお送り下さい。

Eメールアドレスは

nkchb785@ybb.ne.jpです。

電話・Faxは、0947-42-2772

(IP電話 050-1499-2772)